

## 演習林エコツアーガイドの養成講座の再始動

本間航介

新潟大の佐渡演習林におけるスギ原生林エコツアーは開始から 12 年目となり、佐渡島の自然を深く味わいたい人が選ぶ少人数向けのプレミアムツアーとして定着している。このエコツアーは新潟大学・佐渡観光交流機構（観光協会）・佐渡エコツアーガイド組合・佐渡市の四者が合同で実施するもので、演習林の中の推定林齢 500 年以上の中核部分をガイド付き日帰り登山の形式で案内するものである。登山ルートは 3 本設定している。この中核部分はいくつかの保全区分にゾーニングされており、そのうちエコツアー向けに利活用できる部分をガイド同伴、人数上限付きで公開している。

新潟大学はガイド人材の養成、森林状態の把握、エコツアーへの助言、入林許可を担当し、ツアー実施を佐渡観光協会に業務委託する。佐渡市は新潟大と協働での人材養成、観光交流機構の支援を行う。この両者はツアーからの報酬は受け取らない。佐渡観光交流機構は、商品設計、商品販売、広報、ガイド手配、安全管理を受け持ち、佐渡エコツアーガイド協会がツアー実施、登山道整備、森林パトロールを行う。この両者には有償の仕事となる。一見、大学側には利益の無いボランティアな行為に見えるが、大学側にはツアー実施による一般への環境教育効果や森林の広報効果に加えて、ガイド付きツアーを頻回で行うことによる動植物盗掘抑止の効果があり、ツアーガイド達が演習林のパークレンジャー的機能を果たしてくれるという大きなメリットがある。ガイド達は、演習林にとって強力な「地元応援団」なのである。

エコツアーガイドは、佐渡島に在住の人達から公募し、書類と面接で候補者を選んだ上で、2 年かけて養成する。2007 年～2014 年にかけて 7 期にわたる養成講座を開催し、50 名程度の修了生をだした。しかし、体力的な厳しさや本業との兼ね合い、スケジュールリングの難しさから、実際にガイドにつく人はこのうち 20 人程度であり、ツアー開始後十年余を経て当初養成したガイド達の高齢化も目立つようになった。新型コロナによる観光需要激減もあり、てこ入れのために若手ガイドを養成することにした。

エコツアーガイドは、登山ガイドとして顧客の安全確保を行うのに加えて、自然観察のためのインタープリターとしての役割、さらには上述のパークレンジャーとしての役割と一人三役を要求される。新潟大学では従来から学生向けの安全管理実習を 3 泊 4 日の公開森林実習として実施しており、ガイド養成講座ではこの内容に動植物関係の実習とツアーの OJT (On the Job Training) を組み合わせている。今回は 7 年ぶりのガイド養成ということもあり、応募者がいるのかどうか不安であったが、幸いにも 20 歳台から 40 歳台を中心とした 10 名が志願してくれた。これまで十数年にわたり行ってきた演習林エコツアーの試みは、若い世代にも浸透してきたようだ。彼ら新米ガイドが実際のツアーを引っ張るのは再来年度からになるが、それまでじっくりと腰を据えて養成していくつもりである。